

九州・沖縄母子保健研究ベースラインデータの結果 喫煙とアレルギー性疾患有症率との関連

背景：喫煙と喘息との関連に関する疫学研究はたくさんありますが、成人における喫煙と喘息以外のアレルギー性疾患との関連に関する疫学研究は少ない。成人において受動喫煙とアレルギー性疾患との関連に関する疫学研究も少ない。

方法：九州・沖縄母子保健研究のベースライン調査に参加した 1743 名の妊婦さんを対象としました。European Community Respiratory Health Survey に基づき、過去 1 年の喘鳴と喘息を定義しました。International Study of Asthma and Allergies in Childhood に基づき、過去 1 年のアトピー性皮膚炎とアレルギー性鼻結膜炎を定義しました。年齢、居住地域、アレルギー性疾患の家族歴、家計の年収、教育歴を交絡因子として補正しました。受動喫煙との関連については、非喫煙者（1182 名）のみで解析しました。受動喫煙は以下の 4 カテゴリーに分類しました（曝露無し、家のみで曝露、職場のみで曝露、家と職場両方で曝露）。

結果：過去 1 年の喘鳴、喘息、アトピー性皮膚炎、アレルギー性鼻結膜炎の有症率は各々 10.4%、5.5%、13.0%、25.9% でした。非喫煙と比較し、現在喫煙及び 4 パック年以上では喘鳴有症率の高まりと有意な関連を認めました。喫煙状況と喘息、アトピー性皮膚炎、アレルギー性鼻結膜炎の有症率とは関連がありませんでした。受動喫煙については、家と職場両方で曝露が 2.7 倍有意に喘鳴の有症率上昇と関連を認めました。家のみで曝露及び家と職場両方で曝露ではアレルギー性鼻結膜炎有症率の高まりと有意な関連を認めました。

喫煙状況	喘鳴	受動喫煙	喘鳴	アレルギー性鼻結膜炎
非喫煙	1.00	無	1.00	1.00
過去喫煙	1.39 (0.98-1.95)	家のみ	1.83 (0.86-4.25)	1.63 (1.05-2.57)
現在喫煙	1.52 (1.05-2.12)	職場のみ	1.24 (0.48-3.25)	1.10 (0.64-1.88)
		両方	2.73 (1.37-6.08)	1.69 (1.12-2.59)

結論：能動喫煙と受動喫煙とも喘鳴の有症率上昇と関連があるのかもしれない。受動喫煙とアレルギー性鼻結膜炎有症率との正の関連もあるのかもしれない。

出典： Tanaka K, Miyake Y, Arakawa M. Smoking and prevalence of allergic disorders in Japanese pregnant women: baseline data from the Kyushu Okinawa Maternal and Child Health Study. Environ Health. 2012; 11: 15.